

侵入車両 AI 検知システム

Highway Ai-MONITOR

取扱説明書

1.1 版



中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社

Highway Ai-MONITOR Ver3.3

2026 年 8 月発行 1.0 版

2026 年 9 月発行 1.1 版

COPYRIGHT © Central Nippon Highway Engineering Nagoya Co., Ltd.無断複写・転載を禁じます。

著作権について：

当文書のいかなる部分も、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社の書面による同意なしに、本書の利用者によるバックアップ目的の複製を除き、いかなる形式や方法によっても、複写、転載、送信、または任意の言語へ翻訳することは禁じます。

当文書に記載されている製品名、サービス名および企業名は、各社の商標または登録商標です。これらの名称は、権利を侵害する意図なく、利用者の便宜のために識別または説明を目的として使用しています。

免責事項：

当文書に記載されている本体構成・規格および情報は、当該システムの運用・利用に関する情報提供を目的としており、予告なく変更する場合があります。その整合性や正確性について、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社が完全性、正確性および有用性を保証するものではありません。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社は、当文書での誤記や記載漏れについて一切の責任を負いかねます。ご不明な点がございましたら、サポート窓口までお尋ねください。

いかなる状況においても、間接的、専門的、偶発的、または必然的な損害(利益の損失、事業の損失、データの損失、事業の中断などを含む)への責任を負いかねます。

本ソフトウェアおよび関連文書に関する著作権その他一切の権利は、当社に帰属します。

HDMI® および HDMI 高解像度マルチメディアインターフェース、ならびに HDMI のロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。



PSE マーク(Product Safety Electrical Appliance & Materials)は、日本国内で販売される電気製品が電気用品安全法の安全基準を満たしていることを示しています。



本製品は、Linux® オペレーティングシステムを採用しています。

Linux は、米国およびその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。

目 次

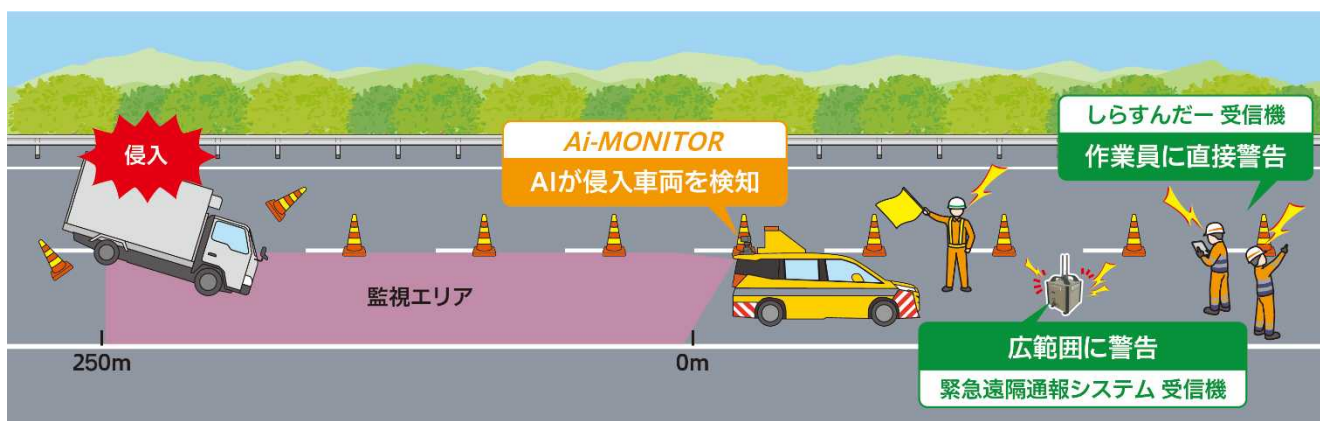
1	はじめに	3
1.1	安全について	3
2	付属品の名称と役割	5
2.1	本体構成	5
3	使用前確認(USB への接続機器)	8
3.1	しらすんだー受信機を使用する場合	8
3.2	緊急遠隔通報システムを使用する場合	9
4	Ai-MONITOR の設置および使用方法(推奨)	10
4.1	作業車両内に機器を設置	10
4.2	カメラの接続	11
4.3	PC 電源アダプターの接続	12
4.4	システム起動(自動起動)	13
4.5	カメラの設置	14
4.6	監視エリアの設定・操作方法	15
5	オプション	24
6	検知データについて	25
6.1	検知データの保存・確認方法	25
7	トラブル時の対応	26
7.1	よくあるエラーと解決方法(FAQ形式)	26
8	問い合わせ先一覧	27
8.1	サポート窓口	27
9	製品の保証について	28
	製品保証書	28

1 はじめに

1.1 安全について

Ai-MONITOR は、AI による車両検知技術と画像処理技術を利用し、上流側の工事規制へ侵入した車両を検知し、下流側の路上作業従事者にアラートを発報し、危険を知らせることで、退避時間を確保する支援システムです。

検知対象となる車両は、乗用車(car)・トラック(truck)・バス(bus)・二輪車(motorbike)の4種類です。



警告

- 路上作業従事者は、関係法令を遵守するとともに、安全教育の徹底および基本動作を励行に努めてください。
- Ai-MONITOR の各機能の特性にかかわらず、常に周囲の安全を確認し、速やかかつ適切に行動して自身の安全確保に努めてください。**Ai-MONITOR の警報のみに依存した作業は絶対に行わないでください。**
- Ai-MONITOR は、路上作業従事者の危険認知および退避行動を支援し、被害軽減を目的としおります。警報が作動した場合は、周囲の状況を確認のしたうえで、適切な退避行動を行ってください。
- Ai-MONITOR は、高速道路上の工事規制内において、作業車両内へ本体を設置して使用することを想定して設計されています。これ以外の環境や用途で使用した場合、本来の性能を十分に発揮できない場合があります。

△ 注意

- Ai-MONITOR の検知性能には限界があります。以下の注意事項を必ずお読みいただき、正しくご使用ください。誤った使用をされた場合、適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- Ai-MONITOR の AI 車両検知機能は、撮影映像をもとに対象車両を認識します。そのため、人の目と同様に、以下のような条件では車両を検知しにくくなる場合があります。
 - 夜間において、照明設備がないなど必要な明るさを確保できない場合
 - 悪天候時(強い雨、吹雪、濃霧など)
 - 太陽光による逆光や車両のヘッドランプなどの強い光を受ける場合
 - カメラレンズ部に雨粒、水滴、汚れ、雪、土埃などが付着し、視界が遮られている場合、または付着物に光が当たる場合
 - レンズの内部に結露が発生している場合
- 以下の条件では、監視対象範囲を適切に撮影ができないため、ご注意ください。
 - カメラ正しい監視方向を向いていない場合
 - ルーフ上の積載物などにより、カメラの視界が遮られている場合
 - カメラが安定して設置されておらず、傾いている場合または落下してる場合
- 以下のような条件では、Ai-MONITOR が一時停止状態となったり、動作が一時的に遅くなったりすることがあります。
 - 高温環境または低温環境で長時間放置した場合
 - 高温環境または低温環境で連続使用した場合
- Ai-MONITOR による侵入検知は、設定された監視エリア内でのみ有効です。また、使用環境や使用条件によっては、対象車両が監視エリア内に侵入してから警報が鳴るまでに遅延が生じる場合があります。

2 本体・付属品の名称と役割

2.1 機器構成

万一、付属品に不足がございましたら、お手数ですが弊社までご連絡ください。

オプション品・別売品をご購入の際は、内容をご確認のうえご注文くださいますようお願いいたします。

【本体・付属品】

品名	写真	用途等
PC 本体※ 電源アダプター		AI 画像処理を行うための PC 本体です。動作には付属の電源アダプターが必要です。
タッチパネル ディスプレイ※		操作用のタッチパネル式ディスプレイです。各種操作は画面をタッチして行います。
USB 望遠カメラ	 ※写真は Type-B・1m	監視用カメラです。監視エリアに向けて設置し、映像を撮影します。 コネクタ: Type-A / ケーブル長: 3m ／保護等級: IPX7 相当
マグネットカメラ スタンド		監視用カメラを車体の金属部に固定するための取付用マグネットスタンドです。
USB リピーター5m (延長ケーブル)		USB 延長ケーブルです。監視用カメラの USB ケーブル長が不足する場合に使用します。
microSD カード		製品の保守・サポートを行う際に使用します。
USB カードリーダー		製品の保守・サポートを行う際に使用します。
USB Wi-Fi アダプター		製品の保守・サポートを行う際に使用します。
USB ハブ		PC 本体の USB ポートを増設するための USB ハブです。
キャリーケース		システム機器を収納するための防滴・防塵ケースです。雨水や粉じんから機器を保護します。
緩衝ウレタン※1		操作用ディスプレイを保護するためのケースです。持ち運び時や保管時の破損を防止します。
ストッパー※1		ケースの蓋部を固定し、不意な開閉を防止するために使用します。

※1)出荷時はケースに取り付けられています。

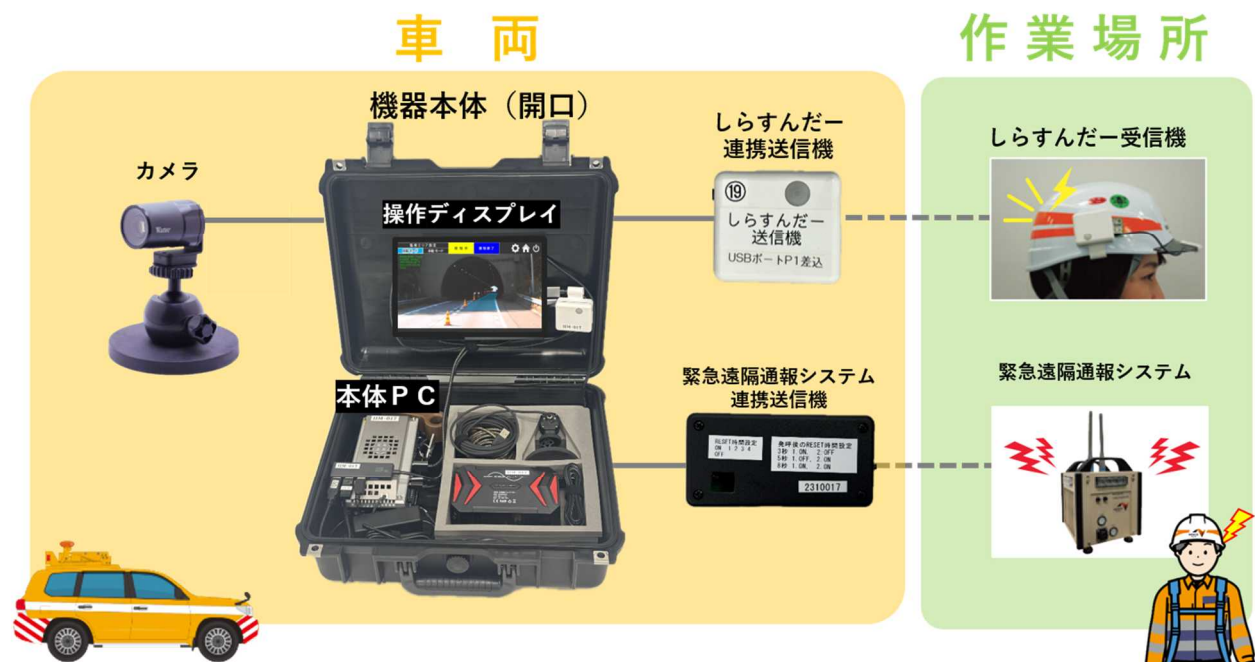
品名	写真	用途等
インバータ 12V 用※2 (普通車)		車両のシガーソケットに接続し、AC100V 電源を供給するためのインバータです。PC 本体の電源アダプターを接続して使用します。
インバータ 24V 用※2 (トラック)		

※2)インバータはご注文いただいたものが付属します。

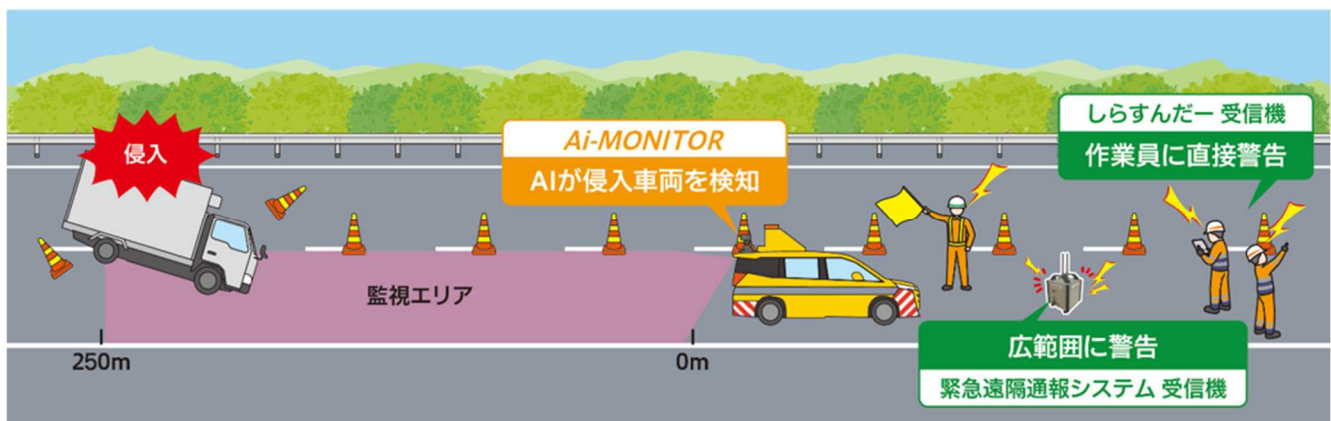
【オプション品・別売り製品】

品名	写真	用途等
しらすんだー 受信機	 ※ヘルメット装着時	車両の侵入を装着者へ通知するための警報装置です。監視エリアへの車両の侵入を検知すると、音と光により警報を発します。
しらすんだー 連携送信機		Ai-MONITOR としらすんだー(受信機)との連携に使用する通信機器です。
緊急遠隔通報システム 可搬式受信機		車両の侵入を作業エリアへ通知するための警報装置です。監視エリアへの車両の侵入を検知すると、音と光により警報を発します。
緊急遠隔通報システム 連携送信機		Ai-MONITOR と緊急遠隔通報システム(可搬式受信機)を連携するための通信機器です。

【機器構成】



【運用イメージ】



3 使用前確認(USB への接続機器)

3.1 しらすんだ一受信機を使用する場合

■ 連携送信機の接続を確認する。

しらすんだ一連携送信機が、下図の USB ハブの赤枠で示したポート(一番左のポート)に正しく接続されていることを確認してください。



▲ 注意

- ・連携送信機は、指定された USB ポート以外には接続しないでください。
故障や誤動作の原因となるおそれがあります。
- ・PC 本体の USB ポートは電圧制御される場合があるため、使用しないでください。
連携送信機は必ず指定の USB ハブに接続してください。

■ しらすんだ一受信機の状態を確認する。

路上作業従事者が装着している各しらすんだ一受信機について、電源が入っていること、およびチャンネル設定(0~9)が連携送信機と同じであることを確認してください。

しらすんだ一の詳細な操作方法や設定方法については、【巻末資料】「しらすんだ一 取扱説明書」を参照してください。



▲ 注意

- ・チャンネル設定が連携送信機と異なる場合、警報を受信できません。

3.2 緊急遠隔通報システムを使用する場合

■ 送信機登録を行う。

送信機登録方法および緊急遠隔通報システムの製品詳細は【巻末資料】「緊急遠隔通報システム 取扱説明書」をお読みください。

■ 連携送信機の接続を確認する。

緊急遠隔通報システム連携送信機が、下図の USB ハブの赤枠で示したポート(左から3番目のポート)に正しく接続されていることを確認してください。



▲ 注意

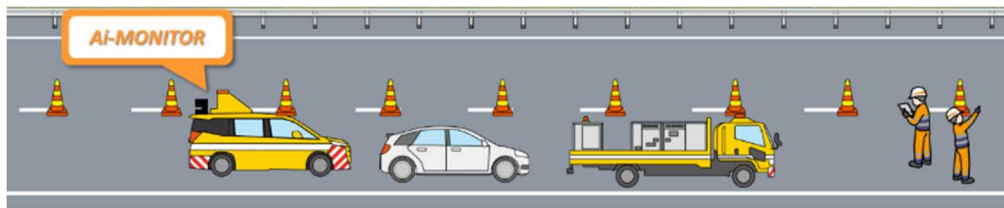
- ・連携送信機は、指定された USB ポート以外には接続しないでください。
故障や誤動作の原因となるおそれがあります。
- ・PC 本体の USB ポートは電圧制御される場合があるため、使用しないでください。
連携送信機は必ず指定の USB ハブに接続してください。

4 Ai-MONITOR の設置および使用方法(推奨)

4.1 作業車両内に機器本体を設置

- 作業車両内に機器本体を設置する。

作業箇所の上流側に配置した作業車両内に、本体を設置します。



下左図のように、座席上などの安定した場所に機器本体を設置してください。

その後、ケースを開き、緩衝ウレタンを取り外してください。また、下右図のようにストッパーを使用し、ディスプレイ側の蓋部が閉じないよう固定してください。

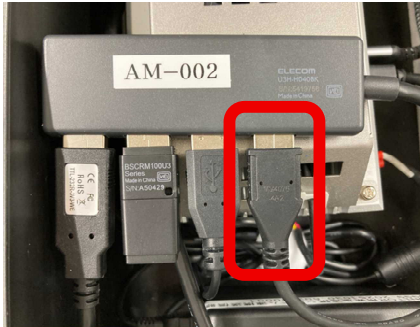


安全確保の観点から、機器本体は規制帯と反対側の後部座席座面への設置を推奨します。

4.2 USB カメラを接続

■ USB カメラを接続する。

PC 本体の電源を入れる前に、USB カメラを接続してください。付属の USB カメラを、下図の USB ハブの赤枠で示したポート(一番右のポート)に接続してください。USB ケーブルの長さが不足する場合は、付属の USB リピーター(延長ケーブル)を使用してください。



USB ハブ



USB リピーター(延長ケーブル)

▲ 注意

- USB リピーター以外の延長ケーブルや変換ケーブルは使用しないでください。
正常に動作しないおそれがあります。
- USB カメラは必ず指定された USB ポート(一番右のポート)に接続してください。
- USB カメラを接続した後に、PC 本体の電源を入れてください。

4.3 PC 電源アダプターを接続する

■ PC 本体の電源アダプターを接続する。

電源アダプターの電源プラグを取り出し、付属のインバータを介して車両のシガーソケットに接続してください。



※掲載している写真は説明用のため、実際の製品とは異なる場合があります。

<お手持ちのインバータを使用する場合の注意事項>

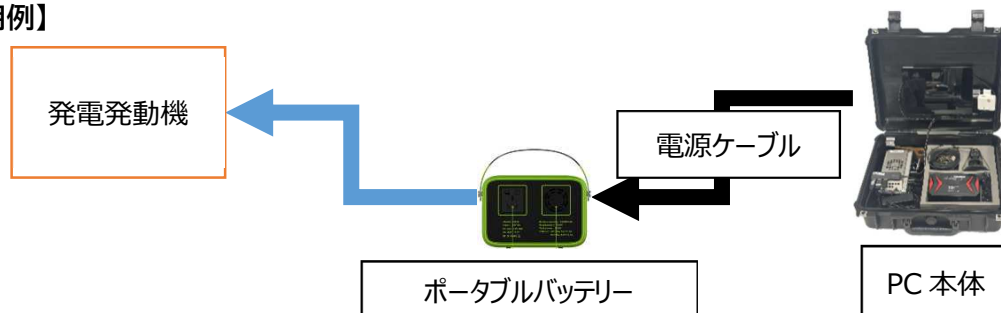
- ✓ お手持ちのインバータを使用する場合は、AC100V～110V、定格出力 150W 以上、かつ純正弦波出力に対応した製品をご使用ください。（本システムの消費電力は最大約 90W です。）
- ✓ 付属の 12V インバータは、純正弦波出力・最大 300W 対応の製品です。
- ✓ 上記条件を満たしている場合でも、他の機器を同時に接続していると、システムに必要な電力（約 90W）を確保できない可能性があります。インバータに接続している機器の消費電力の合計をご確認ください。
- ✓ インバータの出力容量が不足する場合は、AC インバータと PC 本体の間にポータブルバッテリーを接続して使用してください。
- ✓ 純正弦波出力に対応していないインバータを使用する場合も、AC インバータと PC 本体の間にポータブルバッテリーを接続して使用してください。

※ポータブルバッテリーは付属されていません。必要に応じてご用意ください。

<シガーソケット以外の電源（ポータブルバッテリー等）を使用する場合>

- ✓ 必要に応じて、ポータブルバッテリーを設置してください。
特に、標識車等の発動発電機を電源として使用する場合は、電源を安定供給するため、ポータブルバッテリーの使用を推奨します。

【使用例】



※ポータブルバッテリーは付属しておりません。必要に応じて別途ご用意ください。

※ポータブルバッテリーを使用する場合は、本システムに必要な出力が確保できることを確認のうえ使用してください。

4.4 システムを起動する(自動起動)

■ システムを起動する。

電源が供給されると、本体 PC が自動的に起動します。

PC 本体およびディスプレイの電源スイッチを操作する必要はありません。

PC の起動中は、下左図のような起動画面が表示されます。

USB カメラの接続が確認されると、下右図のように「カメラ接続 OK」と表示され、自動的に次の処理へ進みます。

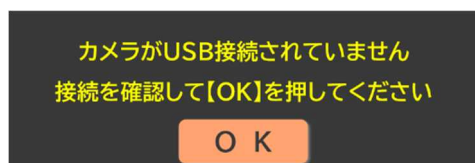


▲ 注意

- ・シガーソケットは、通常、エンジン始動時に給電されます。エンジン停止中はシステムを起動できない場合があります。
- ・アクセサリ電源(ACC)でもシステムを起動できますが、車両バッテリーの消耗やバッテリー上がりの原因となるおそれがあります。

<エラーが表示された場合>

USB カメラが正しく接続されていない場合は、下図のようなエラーメッセージが表示されます。カメラおよび USB ケーブルの接続状態を確認し、画面の【OK】を選択してください。再度カメラの検出を行います。



※問題が改善しない場合は、一度電源アダプターを取り外し、30 秒以上経過してから再度接続してください。

※USB カメラが指定された USB ポートに接続されていることを確認してください。

※USB リピーター以外の延長ケーブルや変換ケーブルは使用しないでください。

4.5 カメラを設置する

■ カメラを設置する。

PC が自動起動している間にカメラを設置します。

カメラとマグネット雲台を車外へ出し、車両上部の金属部分に設置してください。

なお、ケーブルはドアの隙間または窓から車内へ引き込んでください。



▲ 注意

- ・ケーブルをドアに挟み込む場合は、ドアラッチ部を避けて配線してください。
- ・カメラと雲台の接続部に緩みがないことを確認してください。
- ・カメラは車体側面ではなく、車体上部に設置してください。車体側面に設置した場合、他車との接触や法令上の問題が生じるおそれがあります。
- ・雲台のマグネット性能を維持するため、使用前に取付面の汚れや異物を除去してください。
- ・カメラは防滴仕様ですが、大雨などの悪天候時やレンズ部に水滴・汚れが付着している場合は、検知性能が低下することがあります。
- ・雲台には強力な磁石を使用しています。取り外す際は、カメラ本体やケーブルを引っ張らないよう注意してください。

<カメラを車内に設置する場合>

- ✓ カメラは車内に設置し、リアウィンドウ越しに監視エリアを撮影することも可能です。車内に設置する場合は、車内の金属部分にマグネット雲台を固定するか、市販の吸盤式カメラ雲台などを使用して設置してください。
- ✓ 雨天時は、リアワイパーの可動範囲とカメラの設置位置が干渉しないよう注意してください。
- ✓ 車内設置により映像が上下反転する場合は、メニュー画面の[カメラ上下回転]を選択して映像の向きを調整してください。(P22 参照)



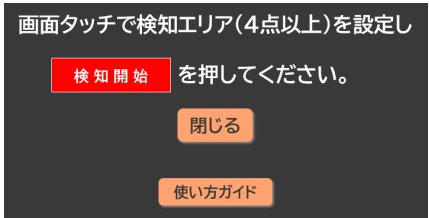
4.6 監視エリアの設定・操作方法

監視エリアは、以下の手順で設定します。詳細は P21 および次頁以降を参照してください。

- 起動後、作業条件および規制形態を選択してください。監視エリアが自動で設定されます。

手順	内 容	操 作 画 面
1	作業条件を選択	
2	規制形態を選択	
3	監視エリア自動設定モードが起動 検知開始	

- 必要に応じて、監視エリアを手動で変更できます。

手順	内 容	操 作 画 面
1	画面左上の「手動モード」を押す	
2	設定方法について メッセージが表示される 「閉じる」を押す	
3	監視したい任意のエリアを 4点以上タッチし [検知開始]を選択	
4	監視エリア手動設定モードで 検知開始	

(1) 作業条件を選択

システムが正常に起動すると、ディスプレイに下図の画面が表示されます。

作業条件に応じて項目を選択し、画面をタッチしてください。

本システムはタッチパネル方式を採用しており、画面をタッチすることで操作できます。



昼夜にわたって連続使用する場合は、走行車両のヘッドライト点灯状況を目安に[夜間]へ切り替えてください。

明かり部からトンネル内へ移動して作業を行う場合は、[トンネル]を選択してください。

(2) 規制形態を選択

規制形態に応じた項目を選択し、画面をタッチしてください。

選択した規制形態に基づき、監視エリア自動設定モードが起動します。



<各規制の説明>

【路肩・走行規制】

登坂車線規制を含みます。

撮影映像において、規制帯が画面右側にある場合に選択してください。

【追越規制】

撮影映像において、規制帯が画面左側にある場合に選択してください。

(3) 監視エリア(自動設定)の確認

作業条件および規制形態の選択が完了すると、システムがラバコーンを検出し、自動で監視エリアを設定した後、監視を開始します。

下図、画面内の塗りつぶし部分が監視エリアです。

監視中は、ラバコーンの位置に応じて監視エリアが自動的に更新されます。



カメラの向きは、監視したい範囲が画面内に収まるように調整してください。

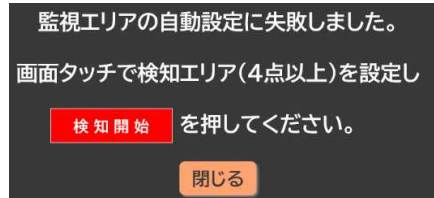
車体に対して水平となるよう設置し、車両後方を真後ろから撮影することで適切な画角が得られます。

<エラーが表示された場合>

起動後 10 秒以内にラバコーンを検出できず、自動設定に失敗した場合は、右図のメッセージが表示されます。

この場合は、[閉じる]を選択し、次項に記載の方法で監視エリアを手動設定してください。

カメラの向きに問題がある場合は、画角を再調整し、[自動モード]を選択して再度自動設定を実行してください。



監視エリアに問題が無ければ、これで設置作業は完了です。

<監視エリアの自動設定に失敗した場合>

自動設定により監視を開始した後、障害物などによって画面上のラバコーンを 10 秒以上検出できなくなった場合は、下図のメッセージが表示されます。

自動エリア検知に失敗しました。
直前のエリアを用いて車両検知を継続します。

この場合、システムは直前に設定された監視エリアの監視を継続します。その後、ラバコーンを再度検出すると、監視エリアが自動的に再設定されます。



イメージ

(4) 監視エリア(手動設定)の設定

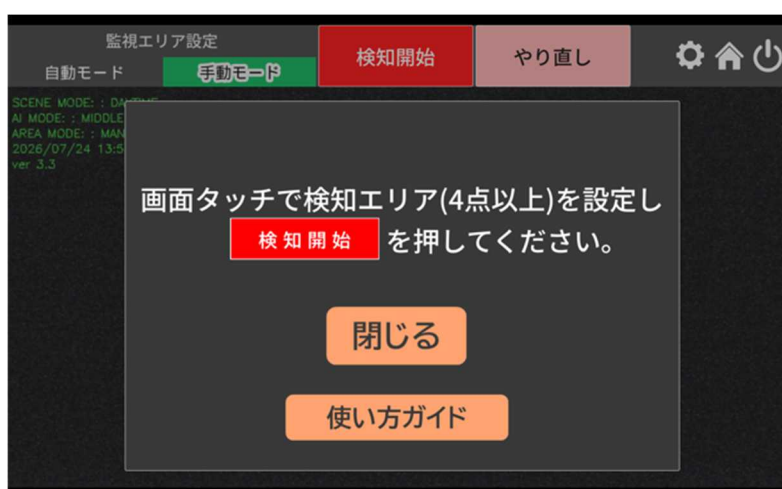
自動設定された監視エリアが意図した範囲と異なる場合や、後方に停車している関係車両を検知してしまう場合は、[監視エリア設定 手動モード]を選択して手動設定に切り替え、監視エリアを設定してください。



<監視エリア設定 切替ボタン>



手動設定に切り替えると、下図のメッセージが表示されます。
内容を確認し、[閉じる]を選択してください。



ディスプレイ上を4点以上タッチして監視したいエリアを指定した後、[検知開始]を選択すると監視を開始します。

[やり直し]を選択すると、監視エリアを何度でも再設定できます。



監視エリアに問題が無ければ、これで設置作業は完了です。

<設定後、工事関係車両が規制内に進入した場合>

自動設定・手動設定を問わず、監視開始後に工事関係車両が規制内へ進入した場合は、アラートが発報されます。

これは車両を検知対象としているためであり、異常や誤動作ではありません。

工事関係車両によるアラートを回避する場合は、手動設定に切り替え、工事関係車両が監視エリアに含まれないよう監視エリアを設定してください。



(5) アラートの発報(侵入車両を検知した場合)

監視エリア内への侵入車両を検知した場合、本体機器から連携送信機(オプション品)を経由して、しらすん
だー受信機(オプション品)および緊急遠隔通報システム受信機(オプション品)へアラートが送信されます。
また、本体機器のディスプレイからもアラート音が発報されます。

しらすんだー 受信機



ヘルメットに装着した受信機
にて警報音とLEDライトで作
業員に対して直接的に危険を
知らせることができます。
通信可能距離:約200m
※中日本ハイウェイ・メンテナンス
名古屋株製品

緊急遠隔通報システム 受信機



箱型可搬式受信機にて、サイ
レンとフラッシュランプで広
範囲に作業員に対して危険を
知らせることができます。
通信可能距離:約1000m
※中日本ハイウェイ・エンジニアリン
グ名古屋株製品

<Ai-MONITOR と各受信機の連携確認>

[設定]から、各受信機との連携確認およびテスト発報を行うことができます。

1. 画面右上の[設定]を選択します。
2. [アラート音 テスト発報]を選択します。
3. 本体 PC(ディスプレイ)からアラート音が発報されることを確認します。
4. 連携送信機を経由して、各受信機からアラート音が発報されることを確認します。



(6) システムを終了する(シャットダウン)

作業が完了し、システムを終了する場合は、[電源]を選択してください。

表示されたウィンドウで[電源オフ]を選択すると、システムがシャットダウンします。



本体 PC の電源が完全に切れたことを確認した後、インバータおよび電源プラグを取り外し、機器をケースに収納してください

(7) <<解説>> 監視エリア自動設定

AI がラバコーンを検出し、監視エリアを自動的に設定します。

そのため、作業車両の移動に合わせて監視エリアを自動で更新することができ、規制内を移動しながらの作業にも対応できます。

なお、監視エリアはカメラ設置位置から後方 100～250m の範囲で設定されます。

○推奨使用

・規制内を移動しながら行う作業



※道路線形やラバコーンの種類によっては、監視エリアが適切に設定されない場合があります。その場合は、手動設定に切り替えてご利用ください。

※特殊なラバコーンを使用している場合など、自動設定が正常に機能しない場合は、サポート窓口までご相談ください。

(8) <<解説>> 監視エリア手動設定

監視したい範囲を 4 点以上タッチして指定することで、手動設定では任意の多角形の監視エリアを設定できます。

なお、監視エリアはカメラ設置位置から後方 200～250m の範囲で設定可能です。

○推奨使用

・規制内の移動を伴わない作業



(9) カメラ画角調整機能について

本システムでは、画面右上の[設定]を選択することで、撮影映像の上下回転および左右反転を設定できます。

項目	説明
カメラ上下回転	撮影映像を上下反転して表示します。 カメラを上下逆向きに設置した場合に使用します。
カメラ左右反転	撮影映像を左右反転して表示します。 カメラの設置方向や表示環境に応じて、左右を反転して表示したい場合に使用します。

※上下回転と左右反転は、組み合わせて使用することもできます。



(10) 車両 AI 検知モードの変更について

本システムでは、AI により車両を検知します。

ただし、使用するカメラ機器や設置環境、現場状況によっては、検知精度が期待するレベルに達しない場合があります。

そのような場合は、画面右上の[設定]を選択し、[AI 検知モード選択]から検知感度を変更することができます。

検知モード	説明
検知優先 HIGH	誤検知が発生する可能性は高くなりますが、検知漏れのリスクを低減できます。 適用イメージ：多少の誤検知は許容するが、より遠方からいち早く危険を検知したい場合
標準 MIDDLE	標準設定です。
誤検知回避 LOW	誤検知は少なくなりますが、検知の遅れや検知漏れが発生する可能性があります。 適用イメージ：誤検知が頻繁に発生している場合

(11) PC 本体の警告音について(ディスプレイからの発報音)

本システムは、監視エリアへの車両の侵入をアラート音で通知します。

監視エリア内への車両侵入を検知した場合は、監視エリアと侵入車両との距離に応じて、以下のアラート音が発報されます。

危険レベル	車両との距離	アラート音
1	遠い	ピロピロ、ピロピロ
2	中くらい	タタタン、タタタン
3	近い	ピリリリ、ピリリリ

5 オプション

(1) しらすんだー受信機



ヘルメットに装着した受信機にて警報音とLEDライトで作業員に対して直接的に危険を知らせることができます。

通信可能距離:約200m

※中日本ハイウェイ・メンテナンス
名古屋株製品

詳細については、【巻末資料】「しらすんだー 取扱説明書」をご参照ください。

(2) 緊急遠隔通報システム受信機



箱型可搬式受信機にて、サイレンとフラッシュランプで広範囲に作業員に対して危険を知らせることができます。

通信可能距離:約1000m

※中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株製品

詳細については、【巻末資料】「緊急遠隔通報システム 取扱説明書」をご参照ください。

6 検知データについて

6.1 検知データの保存・確認方法

車両が監視エリアへ侵入すると、アラート音の発報と同時に静止画が記録されます。

記録された静止画は、本体 PC 内に保存されます。

保存された静止画は、車両侵入時の状況やシステムの動作を後から確認する際に活用できます。

なお、保存データの取り出しは管理者が実施します。データの確認や取り出しが必要な場合は、サポート窓口までご連絡ください。

7 トラブル時の対応

7.1 よくあるエラーと解決方法(FAQ)

- 動作に異常が見られる場合、症状別のチェック項目をお試し下さい。

Q 電源が入らない・起動しない

- ✓ 車両のエンジンはかかっていますか。(参考:P12)
- ✓ シガーソケットから本体までの電源ケーブルは正しく接続されていますか。(参考:P12)

Q カメラの USB チェックエラーが表示される

- ✓ カメラと本体は正しく接続されていますか。(参考:P11)
- ✓ システムを再起動しても改善しませんか。(参考:P13)

Q 撮影画面が真っ黒、または映像が表示されない

- ✓ カメラは車外に向けて設置されていますか。(参考:P14)
- ✓ システムを再起動しても改善しませんか。(参考:P13)

Q 普段見慣れないウィンドウが表示されている

- ✓ OS の更新通知など、キャンセル可能な場合はキャンセルを選択してください。
- ✓ 重大なエラーを示す内容が表示されている場合は、サポート窓口へご連絡ください。

Q フリーズしてしまい、シャットダウンできない

- ✓ 本体に電源ボタンはありません。PCのコンセントを抜いて電源をお切りください。

Q しらすんだー受信機が鳴らない

- ✓ しらすんだー受信機と連携送信機のチャンネル番号は一致していますか。(参考:P8)
- ✓ しらすんだー受信機の電池残量は十分ですか。(参考:P8)

Q 緊急遠隔通報システム受信機が鳴らない

- ✓ Ai-MONITOR と緊急遠隔通報システムの送信機登録は完了していますか。(参考:P9)
- ✓ 緊急遠隔通報システムの電源は入っていますか。(参考:P9)
- ✓ Ai-MONITOR と緊急遠隔通報システム受信機の電源を、同一のシガーソケットから取得していませんか。(参考:P9)

8 問い合わせ先

8.1 サポート窓口

「7.1 よくあるエラーと解決方法(FAQ)」の確認項目をすべて実施しても改善しない場合は、システムを再起動するか、一度システムを停止してしばらく時間を置いた後に再度、ご確認ください。

それでも改善しない場合は、サポート窓口までご連絡ください。

サポート窓口

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社

営業部

〒460-0003

名古屋市中区錦 1-8-11 DP スクエア錦 9F

TEL：052-212-4597

9 製品の保証について

製品保証書

製品名	Highway Ai-MONITOR	製造番号	HAM-	 中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋株式会社 本保証書は、お買い上げ日から保証期間内に故障が発生した場合、無償修理を保証するものです。 ご記入いただいた個人情報は、製品の保守・サポート業務にのみ使用いたします。 なお、お買い上げ日および販売者名の記載がない場合、本保証書は無効となります。 中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋株式会社 〒460-0003 名古屋市中区錦1-8-11 DPスクエア錦 中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋株式会社 営業部 TEL)052-212-4597
お客様様	お名前 様 ご住所 〒 — 連絡先() —			
	お買い上げ日		販売者名・住所・電話番号	
	年 月 日			
保証期間(お買い上げ日より)		電話番号()		
本体1年間				

【保証内容】

保証期間内に、通常の使用状態において発生した製品の不具合については、無償で修理または交換いたします。

【保証対象外事項】

以下のいずれかに該当する場合は、保証の対象外となります。

- ・取扱説明書に記載された使用方法以外での使用、または不適切な取り扱いによる故障または損傷
- ・お客様ご自身または第三者による改造、分解、修理に起因する故障または損傷
- ・地震、風水害、落雷その他の自然災害、公害、事故などの外的要因による故障または損傷
- ・消耗部品の経年劣化または自然摩耗

【保証申請方法】

保証期間内に不具合が発生した場合は、本保証書および購入日を確認できる書類(納品書、受領書等)をご用意のうえ、販売店または当社窓口までご連絡ください。